

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H01078

研究課題名(和文) 社会の分断をあおるコミュニケーションの発生・伝搬・共有過程

研究課題名(英文) The emergence, transmission, and sharing of prejudiced communication that aggravates social divides

研究代表者

唐沢 穰 (Karasawa, Minoru)

名古屋大学・情報学研究科・教授

研究者番号：90261031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,480,000円

研究成果の概要(和文)：政治家や有名人による「つぶやき」から、一見ごく普通の市民が発するヘイト・スピーチに至るまで、社会の分断をあおる言説が広く人々の間に拡散している。本研究では、こうした行為を「分断コミュニケーション」と位置づけ、その基礎にある心理過程を明らかにした。研究手法として、社会心理学実験、社会調査、ソーシャル・メディア分析といった多彩な手法を用いて、ミクロな個人レベルの心理過程とマクロな集合レベルの過程の両者を含む、さまざまなレベルにおける分析を通して、分断の原因を明らかにした。特に、道徳的な価値観とイデオロギーに基づいて、社会的に望ましくない人物や集団を排除しようとする動機的作用が、明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ミクロな個人内の心理過程から、マクロ・レベルの世論やヴァーチャルな空間における言説に至るまで、異なる階層に作用するコミュニケーションの働きを、統一的な観点から明らかにしようとした試みである。社会心理学、文化心理学、計算社会科学という異なる分野の概念と方法論を融合させることによって、新たな研究領域を開拓した点で意義深い。「分断社会」という現実問題の解決を志向した基礎研究の一つの成果と言える。

研究成果の概要(英文)：Aggressive communication that may exacerbate social divisions is ubiquitous in today's world, ranging from "Tweets" by politicians and celebrities to hate speech spread by apparently ordinary citizens. The present study aimed to reveal psychological underpinnings of such divisive communication. Different research methodologies including social psychological experiments, large-scale opinion surveys, and content analyses of social media successfully achieved a collaborative project. The results particularly highlighted the role of moral beliefs and ideology in blaming the "other" camp, which was mainly based on the motivation to excluded unwanted individuals and groups from the broader society.

研究分野：社会心理学

キーワード：社会的分断 コミュニケーション イデオロギー ソーシャルネットワーク 道徳観 動機に基づく認知過程 文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

異なる社会階層、政治的陣営、そしてさまざまな社会集団の間に「分断」が広がっている。従来の社会心理学ではこれを、主に「集団間関係」の枠組みで捉えようとするアプローチが典型的であった。しかしこの枠組みにおける主な目的は、個人内における認知、感情、動機づけ等の過程を解明することで、分断現象の本質であるコミュニケーション過程に迫るには十分とは言えないものであった。

2. 研究の目的

本研究では以下の主要な研究課題を設定し、社会心理学実験、社会調査、ソーシャル・メディア分析などの多様な手法を用いた学際的なアプローチを試みた。

(1) 選択的なコミュニケーション過程の検証

コミュニケーション過程に関する基本的問題として、自己と信念の異なる他者との接触を回避するという「選択的接触」過程、他者は一般にメディアが発信する情報からの影響を受けやすいのに対し、自己は影響を受けにくいと知覚する「第三者効果」、信念の似通った者同士が実際にソーシャル・メディア上においてネットワーク形成と情報交換を行う実態の3点を、重点的に検討した。

(2) 分断の基礎を成す感情・認知・動機づけ過程の解明

イデオロギー対立をはじめとする、攻撃性を含んだ社会的分断の基礎には、道徳的信念に基づく排斥傾向が作用しているという可能性に着目し、道徳的直感とそれがもたらす帰結について、詳細な検証を行なった。特に、道徳的に望ましくない人物を排除しようとする動機づけの効果を解明することを目指した。

(3) 共通の基盤としての文化の役割

選択的なコミュニケーションや、動機に基づく推論過程が集合的なレベルで作用する基礎には、文化的に共有された価値観の存在が想定される。少なくとも日本社会において、道徳意識やイデオロギー的信念を方向づける文化的な特質を明らかにすることを、目的の一つに設定した。

3. 研究の方法

(1) 選択的コミュニケーション

・社会心理学実験による研究として、アウトソーシング・サービスを通じて募集した参加者を対象に、インターネット上での社会調査（Web 調査）形式による準実験研究を行った。

・第三者効果に関する、Web 調査を行い11の属性について異なるプロフィールを持つ架空の人物2名を呈示し、マスコミによるニュースの影響をどの程度受けやすいと思われるかについて判断を求めた。

・ソーシャル・メディアにおける分断過程の検証は、Twitter への投稿内容の分析をもに行なった。英語・日本語の各言語によるツイートの内容について、道徳基盤関連語やLGBT 関連語などを手がかりとして用いながら、ツイート・リツイート関係に基づいた情報のネットワーク構造と、ユーザー間の関係に基づいた対人ネットワーク構造の両者を分析した。

(2) 動機に基づく推論過程

・望ましくない人物に対する排斥傾向については、以下の多数の実験研究を行った。一例として、作為シナリオと不作為シナリオを題材に用いて、人物に対する非難と行為に対する非難を比較対照した。

(3) 文化的基盤に関する検証

・道徳基盤理論に基づく研究では十分な検証が行われてこなかった、日本文化に特有な道徳基盤の存在可能性を探索するために、新規に開発した質問紙尺度を用いた一連の研究を行った。

・

4. 研究成果

(1) 選択的コミュニケーション

・選択的接触に関する実験的研究では全般に、選択的接触が、信念間の認知的斉合性を維持しようとする動機と、対人葛藤を回避しようとする動機の両者によって媒介されることを示した。

・第三者効果に関する調査結果は、コンジョイント分析の結果、他者の政治的立場、学歴、年齢、職業、趣味、購読紙や利用するソーシャルネットワーク・サービス（SNS）といったメディア情報源が、影響認知を規定することが明らかになった。

・道徳基盤辞書（J-MFD）を用いたソーシャル・メディア分析では、LGBT関連のツイートの日本語・英語いずれにおいても、「忠誠」基盤との共起関係が特に顕著であることを示した。一方、対人間のネットワーク構造に関する分析では、英語での投稿者間では「擁護（care）」基盤が最も大きなクラスターの形成に関係することが示され

(2) 動機に基づく推論過程

・道徳違反行為の「作為」と、道徳的行為を行う機会を逸する「不作為」の、それぞれに対する非難を比較対照した実験研究では、両者に同等の非難が行われることが示され、先行研究に続く現象の頑健さが確かめられた。このうち、特に行為が存在しない不作為の場合には、「望ましくない人格」を排除しようとする動機が主要因であることを明らかにし、人格に基づく非難（person-based blame）と、その基礎にある動機的推論過程が作用することを示した。

(3) 文化的基盤

・日本文化に特有の道徳基盤に関する検討では、道徳基盤理論において「清浄・神聖」基盤として一括されていたものについて、日本ではさらに細分化された基盤が作用する可能性を示唆する結果が得られた。そして、「ケガレ忌避」と嫌悪感情の関係、「やさしさ」「集団権威」「努力・がまん」が持つ道徳的含意、さらに「空気信仰」と主張的行動の忌避との関係などを明らかにした。これらの尺度を論文化して、他の研究にも活用できるよう提供し、日本における道徳研究のさらなる発展の可能性を拓いた。

・病原体忌避の傾向と偏見の関係、アニミズム傾向と物欲主義など価値意識との関係などの分析した国際共同研究からは、対人的排斥だけでなくモノを介した排斥傾向が、分断をもたらす可能性について、重要な知見を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 31件／うち国際共著 14件／うちオープンアクセス 29件）

1. 著者名 Hirozawa, P. Y., Karasawa, M., & Matsuo, A.	4. 巻 160
2. 論文標題 Intention matters to make you (im)moral: Positive-negative asymmetry in moral character evaluations.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Social Psychology	6. 最初と最後の頁 410-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00224545.2019.1653254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hirozawa, P. Y., Karasawa, M.	4. 巻 18
2. 論文標題 Negative desires make failure to help more blameworthy: The role of wrongness and moral character evaluations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Wice, M., Karasawa, M., Matui, T., & Miller J. G.	4. 巻 23
2. 論文標題 Knowing minds: Culture and perceptions of mental state access	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Journal of Social Psychology	6. 最初と最後の頁 319 - 327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajsp.12404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Rudnev, M., Vauclair, C.-M., Aminihajibashi, S., et al.	4. 巻 15
2. 論文標題 Measurement invariance of the moral vitalism scale across 28 cultural groups	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0233989
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0233989	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鳥海不二夫, 笹原和俊, 奥田慎平, 福原奈央	4. 巻 60
2. 論文標題 計算社会科学による新型コロナウイルス関連相談分析の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国民生活研究	6. 最初と最後の頁 16-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笹原和俊	4. 巻 9
2. 論文標題 フェイクやヘイトを助長するネットの言語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kitamura, H., & Matsuo, A.	4. 巻 12
2. 論文標題 Development and Validation of the Purity Orientation_Pollution Avoidance Scale: A Study With Japanese Sample	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1 - 12 .
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.590595	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉・下田麻衣	4. 巻 91
2. 論文標題 恨み忌避感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 54-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.91.19204	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部恒之・北村英哉・原 朔	4. 巻 6
2. 論文標題 コロナ問題をめぐる哲学と心理学の対話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉	4. 巻 77
2. 論文標題 偏見や差別はなぜ起こるのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 12-18.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Narita, A., & Ishii, K.	4. 巻 11
2. 論文標題 My voice capturing my attention to myself: The effects of objective self-awareness on Japanese people.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.01596	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井敬子	4. 巻 63
2. 論文標題 なぜ人(ヒト)は協力し助け合うのか、そして文化比較研究の意義とは 新谷論文へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 346-353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wice, M., Matsui, T., Tsudaka, G., Karasawa, M., & Miller, J. G.	4. 巻 -
2. 論文標題 Verbal display rule knowledge: A cultural and developmental perspective	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cognitive Development	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cogdev.2019.100801	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sprong, S., Jetten, J., Wang, Z., Peters, K., Mols, F., Verkuyten, M., Bastian, B., ... Karasawa, M., et al.	4. 巻 30
2. 論文標題 "Our country needs a strong leader right now": Economic inequality enhances the wish for a strong leader.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychological Science	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0956797619875472	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsuo, A., Brown, C. M., Norasakkunkit, V., & Karasawa, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 How can I become a member of my culture?: Shared representations of community-related moral violation in Japan and the U.S.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Culture and Brain	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40167-019-00084-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Bastian, B., Vaclair, M., Loughnan, S., Bain, P., ... Karasawa, M., et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Explaining illness with evil: Pathogen prevalence fosters moral vitalism.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rspb.2019.1576	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Brown, C. M., Goto, N., Tsukamoto, S., & Karasawa, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Understanding collective guilt: Tolerance for contradiction and state-trait dissociations in perceived overlap between ingroup members	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Current Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 笹原和俊, 杜宝発	4. 巻 8
2. 論文標題 ソーシャルメディアにおける道徳的分断: LGBTツイートの事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会情報学	6. 最初と最後の頁 65-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14836/ssi.8.2_65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉・下田麻衣	4. 巻 91
2. 論文標題 恨み忌避感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 54 - 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.91.19204	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Eisen, C., & Ishii, K.	4. 巻 10
2. 論文標題 Sociocultural variation in reactions to a group member's vicarious choice and the role of rejection avoidance.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.01311	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishii, K.	4. 巻 59
2. 論文標題 When people avoid a product chosen by others: The effects of the need for uniqueness and the presence of others.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実験社会心理学研究	6. 最初と最後の頁 114-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2130/jjesp.1909	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Smith, H. J. , Ryan, D. A., Jaurique, A., Pettigrew, T. F., Jetten, J., Karasawa, M., et al.	4. 巻 49
2. 論文標題 Cultural values moderate the impact of relative deprivation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Cross-Cultural Psychology	6. 最初と最後の頁 1183-1218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0022022118784213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Smeeks, A., Jetten, J., Verkuyten, M., Wohl, M. J. A., ... Karasawa, M., et al.	4. 巻 49
2. 論文標題 Regaining in-group continuity in times of anxiety about the group's future: A study on the role of collective nostalgia across 27 countries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Psychology	6. 最初と最後の頁 311-329
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1027/1864-9335/a000350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasahara, K.	4. 巻 2
2. 論文標題 You are what you eat: A social media study of food identity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Computational Social Science	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42001-019-00039-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笹原和俊	4. 巻 34
2. 論文標題 ツイートの中的モラル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 146-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuo, A., Sasahara, K., Taguchi, T., & Karasawa, M.	4. 巻 14
2. 論文標題 Development and Validation of the Japanese Moral Foundations Dictionary	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0213343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0213343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉	4. 巻 56
2. 論文標題 責任帰属に及ぼす道徳基盤と公正世界信念の影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉・山口雄人・石橋加帆・Mechael J. Gill	4. 巻 16
2. 論文標題 加害者の生い立ち情報がBlameおよび帰属と自由意志の推定に及ぼす影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報	6. 最初と最後の頁 43-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北川茉里奈・稲増一恵	4. 巻 118(196)
2. 論文標題 人々はソフトニュースをどのように捉えているのか～コメンテーターに着目して～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 信学技報	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsukamoto, S., Kashima, Y., Haslam, N., Holland, E., & Karasawa, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Entitativity perceptions of individuals and groups across cultures	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 In J. Spencer-Rodgers, & K. Peng. (Eds.), The psychological and cultural foundations of East Asian cognition: Contradiction, change, and holism. New York: Oxford University Press.	6. 最初と最後の頁 333-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金内さよ・三浦麻子・唐沢穰	4. 巻 92
2. 論文標題 報復や報恩は連鎖するか 独裁者ゲーム を用いた実験的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.92.20301	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Awale, A., Chan, C. S., Tam, K. Y. Y., & Karasawa, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Perceived warmth of offending group moderates the effect of intergroup apologies	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Group Processes & Intergroup Relations	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1368430220961844	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsuo, A., Du, B., & Sasahara, K.	4. 巻 12
2. 論文標題 Appraisal of the Fairness Moral Foundation Predicts the Language Use Involving Moral Issues on Twitter Among Japanese	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.599024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Singh, M., Kaur, R., Matsuo, A., Iyengar, S. R. S., & Sasahara, K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Morality-Based Assertion and Homophily on Social Media: A Cultural Comparison Between English and Japanese Languages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.768856	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Azami, R., Kikutani, M., & Kitamura, H.	4. 巻 7
2. 論文標題 Perception of Hidden Confidence in Neutral Expressions: Interactions of Facial Attractiveness, Self-Esteem, and Names to Be Addressed by	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Languages	6. 最初と最後の頁 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/languages7020088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉・松尾朗子	4. 巻 30
2. 論文標題 事前登録追試研究：道徳領域と感情の対応性および、道徳違反の伝達性についての政治態度を含めた検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 パーソナリティ研究	6. 最初と最後の頁 167-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2132/personality.30.3.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉	4. 巻 37
2. 論文標題 なぜ被害者バッシングが起きるのか：公正世界仮説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村英哉	4. 巻 7
2. 論文標題 穢れと社会的排斥	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 4-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.7.1_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 van Leeuwen, F., Inbar, Y., Petersen, M. B., Aaroe, L., Barclay, P., Barlowe, F. K., De Barra, M., Becker, D. V., Borovoi, L., Choi, J., Consedine, N. S., Conway, J. R., Conway, P., Cubela Adoric, V., Demirci, E., Fernandez, A. M., Ferreira, D. C. S., Ishii, K., Jaksic, I., ... Tybur, J. M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Disgust sensitivity relates to attitudes toward gay men and lesbian women across 31 nations.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Group Processes and Intergroup Relations	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/13684302211067151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計77件(うち招待講演 22件/うち国際学会 18件)

1. 発表者名 唐沢 穣
2. 発表標題 陰謀論をめぐる受容と抵抗の心理過程
3. 学会等名 第6回 ザ・プロフェッショナル・レクチャー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 唐沢 穰
2. 発表標題 新しいモラル・サイコロジーへ - 進化、発達、社会の観点から - 指定討論
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠原伊織, 唐沢穰
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染者の情報開示に対する態度とその規定因：政治的イデオロギーが及ぼす効果に着目して
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠原伊織, 唐沢穰
2. 発表標題 日本人を対象とした選択的接触の生起過程の検討：認知的不協和と共有現実への脅威の知覚による媒介過程に着目して
3. 学会等名 日本社会心理学会第61回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Iori Kasahara, Minoru Karasawa
2. 発表標題 Selective exposure among Japanese citizens and its relational basis: Perceived threat to shared reality invites avoidance of an opposing opinion
3. 学会等名 The 22nd annual convention of Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chihiro Kida, Park Goun, Keiko Ishii, Minoru Karasawa
2. 発表標題 Food-Based Identity, Consumer Attitudes, and Moral Judgements
3. 学会等名 The 22nd annual convention of Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazutoshi Sasahara
2. 発表標題 Online echo chamber: What is it and how to break out of it?
3. 学会等名 Eurasian Summit of models for Society 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥田慎平, 笹原和俊
2. 発表標題 Twitterデータを用いた新型コロナ禍における転売現象の分析
3. 学会等名 第5回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Wentao Xu, Kazutoshi Sasahara
2. 発表標題 Characterizing the roles of bots during the COVID-19 infodemic on Twitter
3. 学会等名 第5回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュースとSNSの諸問題
3. 学会等名 電気通信協会フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 計算社会科学で探るインフォデミックの予兆
3. 学会等名 第11回EAJ中部レクチャー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹原和俊, SUGANO Bruno Toshio, 奥田慎平, 佐治礼仁, 加藤周
2. 発表標題 Polyphony: 多様なつながりを促進するSNS
3. 学会等名 第34回 人工知能学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井敬子
2. 発表標題 食の志向性と時間割引における衝動性
3. 学会等名 日本社会心理学会第61回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tam, P., & Ishii, K.
2. 発表標題 Blood donation beliefs and messages: The case of Japan
3. 学会等名 Health Preconference, The 22nd Annual meeting of Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村英哉・松尾朗子
2. 発表標題 清浄志向 / 穢れ忌避傾向(POPA)傾向と日本の宗教心
3. 学会等名 日本感情心理学会第28回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村英哉・三浦麻子・松尾朗子
2. 発表標題 清浄志向 / 穢れ忌避 (POPA) 傾向が移民に対する不安感に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村英哉
2. 発表標題 清浄志向 / 穢れ忌避傾向としぜん主義がAI受容に及ぼす影響 - 人為を嫌い, 自然が一番 -
3. 学会等名 日本社会心理学会第61回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部恒之・北村英哉・原 朔
2. 発表標題 コロナ問題をめぐる哲学と心理学の対話（シンポジウム）
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北村英哉
2. 発表標題 「不安」、「自信」、「信頼」- 表情認知の心理学
3. 学会等名 情報処理学会関西支部（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲増一憲
2. 発表標題 マスメディアに「影響される」のは自分ではなく誰なのか
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 唐沢穰・浅井暢子
2. 発表標題 日本的イデオロギーと分断の可能性：調査データ
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 唐沢穰
2. 発表標題 社会心理学は過激主義とどう向き合うか？
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会公開シンポジウム 指定討論（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Karasawa M., Tsukamoto S., & Ryu H.
2. 発表標題 Can patriotism be distinguished from nationalism? Empirical evidence concerning Japanese national identity and its ideological significance
3. 学会等名 Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朴ゴウン・唐沢穰
2. 発表標題 道徳判断におけるシステム脅威とナショナリズムの影響
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤洋大・荒井崇史・阿部恒之・唐沢穰
2. 発表標題 社会的迷惑行為を認知した際の感情状態の調査
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Du, B. & Sasahara, K.
2. 発表標題 Analysis of personal attribute relationships based on online research and social data
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクやヘイトを助長するネットの言語
3. 学会等名 日本歴史言語学会 2019 年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sasahara, K.
2. 発表標題 Emergence of Online Echo Chambers
3. 学会等名 六甲フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Du, B. & Sasahara, K.
2. 発表標題 Analysis of Moral Divide in Online Communities
3. 学会等名 第4回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉森真樹・笹原和俊
2. 発表標題 仮想的なタイムラインの再構築実験によるエコーチェンバーの緩和についての検討
3. 学会等名 第4回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュースの生態系
3. 学会等名 ウェブサイエンス研究会 オープンセミナーvol.8 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 計算社会科学による人間・社会のわかり方
3. 学会等名 第10回ソーシャルコンピューティングシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュース問題: 計算社会科学によるアプローチ
3. 学会等名 JST/CRDS 公開ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 エコチェンバー現象の計算社会科学
3. 学会等名 ネットワーク科学セミナー2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 エコチェンバー化する SNS の計算社会科学
3. 学会等名 日本グループ・ダイナミクス学会第66回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュースと計算社会科学
3. 学会等名 情報処理学会連続セミナー2019 第4回 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュースを科学する
3. 学会等名 千里ライフサイエンスフォーラム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュース拡散の仕組み：計算社会科学の見地から
3. 学会等名 基盤SメディアクローンPJ研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 計算社会科学の見地から
3. 学会等名 PHP総研「AI社会と選挙ガバナンス」研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村英哉・松尾朗子
2. 発表標題 清浄志向／ケガレ忌避傾向尺度の作成と信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 日本感情心理学会第27回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村英哉・山口雄人・石橋加帆・Gill, M. J.
2. 発表標題 生い立ち情報がハラスメント非難の緩和に与える影響の検討 - 公正世界観からみた加害者への責任帰属 -
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部恒之・北村英哉・熊谷智博・村山達也・原 塑
2. 発表標題 正義をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学（2）話題提供者
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村英哉・尾見康博
2. 発表標題 自己卑下および他者賞賛における相互性の期待
3. 学会等名 日本グループ・ダイナミクス学会第66回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村英哉・松尾朗子
2. 発表標題 清浄志向ノケガレ忌避傾向とケガレ関連刺激への潜在態度との関連 - AMPを用いた検討 -
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北村英哉
2. 発表標題 ダイバーシティ推進とアンコンシャスバイアスを考える
3. 学会等名 電気通信大学男女共同参画・ダイバーシティ戦略室（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲増一憲
2. 発表標題 自他に対する社会的影響の認識の差が招く社会の分断
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishii, K.
2. 発表標題 Residential mobility fosters sensitivity to the disappearance of happiness.
3. 学会等名 the 13th biennial conference of Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井敬子・大石繁宏
2. 発表標題 非言語的な手段による文化的価値の産出.
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻啓人・石井敬子
2. 発表標題 独立・協調と社会経済的地位の相互作用：日独比較研究.
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本早織・Brown, C.
2. 発表標題 寛容さを予測する文化社会的要因と認知的完結欲求
3. 学会等名 日本社会心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 唐沢 穰
2. 発表標題 集団の意図と責任 社会心理学的検証
3. 学会等名 応用哲学会第10回年次研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 唐沢 穰・塚本早織・柳 学済
2. 発表標題 日本人の国民・国家意識とそのイデオロギー性：愛国心、ナショナリズム、国際主義の現在
3. 学会等名 日本社会心理学会第59回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 唐沢 穰
2. 発表標題 集団の意図と責任 -実体の認知か擬制か-
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirozawa, P. Y., & Karasawa, M.
2. 発表標題 Accepting a request with implied rule violation: A Brazil-Japan comparison on underlying psychological processes
3. 学会等名 the 24th International Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュース現象の計算社会科学
3. 学会等名 電子情報通信学会大会総合大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 T. Yo and K. Sasahara
2. 発表標題 Prevalence of Personal Attributes Found in Twitter Posts
3. 学会等名 第3回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 D. Baofa and K. Sasahara
2. 発表標題 Relationships of Political Alignment and Personal Attributes: Online Survey and Social Data Analysis
3. 学会等名 第3回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉森真樹, 水野誠, 笹原和俊
2. 発表標題 熱狂現象の計算社会科学：日本プロ野球のソーシャルメディア分析
3. 学会等名 第3回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 フェイクニュース現象の計算社会科学
3. 学会等名 第3回計算社会科学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹原和俊
2. 発表標題 エコーチェンバー現象の計算社会科学－計算論的手法で読み解く政治的意見の形成・伝搬過程
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 K. Sasahara
2. 発表標題 Emergence of online echo chambers
3. 学会等名 EVOSLACE in ALIFE 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 K. Sasahara
2. 発表標題 You Are What You Eat: A Social Media Study of Personality Traits
3. 学会等名 International Conference on Computational Social Science (IC2S2) 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 R. Kaur and K. Sasahara
2. 発表標題 Mapping the Moral Domain: A Factor Analysis of Distributed Representations of Moral Words
3. 学会等名 International Conference on Computational Social Science (IC2S2) 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笹原和俊, 田口靖啓
2. 発表標題 日本語歌詞の道徳性: 道徳基盤理論に基づくテキスト分析
3. 学会等名 2018年度人工知能学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 T. Yo and K. Sasahara
2. 発表標題 Quantification of Diverse Personal Attributes in Tweets
3. 学会等名 2018年度人工知能学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村英哉・小林麻衣・木村はるか
2. 発表標題 恨まれる状況の喚起と恨み忌避傾向が他者の表情検出に及ぼす効果
3. 学会等名 日本社会心理学会第59回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田匡人・石井辰典・村山 綾・綿村英一郎・遠藤利彦・北村英哉
2. 発表標題 正義は人のためならず - 公正推論から描くシャーデンフロイデの輪郭 -
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北村英哉
2. 発表標題 偏見と差別の仕組み
3. 学会等名 第13回日本感情心理学会セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideya Kitamura
2. 発表標題 The effect of moral foundation priming on the evaluation and interpretation of human behavior
3. 学会等名 International Convention of Psychological Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北川茉里奈・稲増一憲
2. 発表標題 メディアの中の他者の意見
3. 学会等名 日本社会心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kasahara, I., & Karasawa, M.
2. 発表標題 Interpersonal selective exposure and the moderating role of moral conviction: Evidence from Japan,
3. 学会等名 The 23rd annual meeting of Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kida, C., & Karasawa, M.
2. 発表標題 Construal of disability as a potential source of policy support toward elimination of discrimination
3. 学会等名 The 23rd Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sato, Y., & Karasawa, M.
2. 発表標題 Being unaware of potential harm is blamed, even in the absence of the act: Inference of the (in-)actor's mental state as a basis of moral judgments,
3. 学会等名 The 23rd Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yanagida, W., Karasawa, M., & Murata, K.
2. 発表標題 Implicit stereotypes among Japanese against people with disabilities
3. 学会等名 The 23rd Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Zheng, S., & Ishii, K.
2. 発表標題 Distant emotional support seeking mediated the negative effect of home culture orientation on psychological adaptation
3. 学会等名 The 23rd Annual meeting of Society for Personality and Social Psychology. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唐沢穂
2. 発表標題 社会の分断について考える
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム「『誰一人取り残さない』社会の実現のために：心理学者が考える『持続可能な開発目標（SDGs）』」（第2回）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Karasawa, M.
2. 発表標題 The ideological nature of national attitudes among Japanese under globalization
3. 学会等名 26th International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 笹原和俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 6
3. 書名 「パンデミック時代の感染症研究：病原体の病原性、多様性、生活環から新型コロナウイルスを取り巻く社会の動きまで」第3章7. インフォデミック	
1. 著者名 Baddeley, Alan D (著), 佐伯恵里奈(監訳・翻訳), 齊藤智(監訳・翻訳), 前原由喜夫(翻訳), 上野泰治(翻訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 411
3. 書名 ワーキングメモリの探究：アラン・バドリー主要論文集	
1. 著者名 北村英哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 250
3. 書名 「社会的認知：現状と展望」（唐沢かおり編）第6章「自動的処理と統制的処理」（83-98 頁）	
1. 著者名 北村英哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 誠信書房	5. 総ページ数 190
3. 書名 「心理学から見た社会：実証研究の可能性と課題」（北村英哉・桐生正幸・山田一成 編著）第1章・構成と道徳ーモラル・サイコロジーへの展開（3-19頁）	

1. 著者名 子安増生・丹野義彦・箱田裕司（監修）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 996
3. 書名 現代心理学辞典	

1. 著者名 笹原和俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 近代科学社	5. 総ページ数 420
3. 書名 AI事典 第3版（「集合知」を分担執筆）	

1. 著者名 内山伊知郎監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 472
3. 書名 感情心理学ハンドブック	

1. 著者名 笹原和俊	4. 発行年 2018年
2. 出版社 化学同人	5. 総ページ数 192
3. 書名 フェイクニュースを科学する 拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ	

1. 著者名 笹原和俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都通信社	5. 総ページ数 133
3. 書名 社会と調査22号 (分担: ビッグデータとは何か)	

1. 著者名 北村英哉・唐沢穰 (共編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ちとせプレス	5. 総ページ数 290
3. 書名 偏見や差別はなぜ起こる?	

1. 著者名 笹原和俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 化学同人	5. 総ページ数 206
3. 書名 フェイクニュースを科学する 拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ (追補版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石井 敬子 (Ishii Keiko) (10344532)	名古屋大学・情報学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	稲増 一憲 (Inamasu Kazunori) (10582041)	関西学院大学・社会学部・教授 (34504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上野 泰治 (Ueno Taiji) (20748967)	東京女子大学・現代教養学部・准教授 (32652)	
研究分担者	笹原 和俊 (Sasahara Kazutoshi) (60415172)	東京工業大学・環境・社会理工学院・准教授 (12608)	
研究分担者	北村 英哉 (Kitamura Hideya) (70234284)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	
研究分担者	鶴田 早織（塚本早織） (Tsuruta-Tsukamoto Saori) (80794073)	愛知学院大学・心理学部・講師 (33902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
				他2機関
米国	Gonzaga University	State University of New York, New Platz	New School of Social Research	
中国	香港大学	香港教育大学		
オーストラリア	University of Melbourne	La Trobe University		
ドイツ	Ulm University			
イタリア	Padova University			
シンガポール	Nanyang Technological University			